

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202171		
法人名	社会福祉法人三省会		
事業所名	グループホームやまずみ荘		
所在地	佐世保市山祇町388		
自己評価作成日	平成21年12月3日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成 22年 2月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>市内の中心的な場所にありながら緑に囲まれた閑静な場所に位置し、特別養護老人ホーム等の施設に併設されており他の介護事業所と連携した対応が取れる。また、病院との連携が他の施設よりも優れており、毎日病院の看護師が訪問し、グループホーム利用者の把握と日常の状況把握が出来ており、急変時の対応の場合でもグループホームの看護師とも連携が取りやすくなっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>見晴らしの良い高台にホームはあり、リビングからの眺めは絶景である。管理職と職員のチームワークも更に良くなっており、日々、ご利用者が快適に過ごせるためのアイデア交換が活発に行われている。解決への時間も早く、アイデアの実践の時にも管理者が機敏に動いて下さり、ホームの至る所に、その“アイデア”を見ることが出来る。食事を楽しむことへのアイデアも豊富で、1人ずつのミニ土鍋で“うどん”を食べたり、職員が自宅から持ち寄った“お弁当箱”に食事を盛り付ける等、職員自身も日々の生活を楽しまれている様子が伝わってくる。22年2月からは、ご利用者毎の“ほめノート”を作成した。“ほめノート”には、それぞれのご利用者の素敵なお手伝いをして頂いている様子等が職員によって記入されており、ご利用者やご家族も、そのノートを読まれている。ご利用者と、ノートの内容を話題にすることで、ご利用者の思いや意向をより深く知ることができるようになっている。日勤職員が掲げる「今日の目標」や、ご利用者、管理者、職員が掲げる「毎年の目標」も継続されており、着実に年輪を積み重ねているホームであった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を指針表に綴り、ホーム内には入居者職員の「願い」を掲げている。また、年間月間目標を年度始めに決め、その実践のために毎月会議を開催している。	“地域の協力のもと安心して生活のできる暮らしをめざす”というホーム独自の理念を掲げている。職員は、ご利用者が感じておられる不安を知り、それを取り除く為にはどのような支援が必要なのか、ということを常に念頭に置きながら、日々支援に取り組んでいる。毎日、日勤職員が「今日の目標」を掲げ、職員同士で共有し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所で行われる行事(神社の夏祭り・公民館祭り等)の準備に加わったり、見物に行く。近所のスーパーへ買い物に行き、顔なじみの方との交流を援助する。近郊の学校の先生や生徒の方の実習の受け入れを行っている。	神社の夏祭りでは、職員が祭り会場のちょうちんの飾り付けを行う等、準備の段階から参加している。ホームでは、地域の小学生の社会科見学や中学生の職場体験の受け入れを行っており、ご利用者は学生との交流を楽しまれている。併設施設との合同夏祭りには、地域の方も参加され、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室を開催し参加していただく。講師を招いて認知症について勉強会を行っている。運営会議を通して事業所の活動内容を知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場でグループホームで行っている取り組みや、行事内容、研修参加状況を報告し必要な助言を聴いている。また、家族や入居者からそれぞれの要望や意向を聞き、サービスの向上に活かしている。	公民館長、ご利用者とご家族の代表の参加のもと2ヶ月に1回、ホームのリビングで行われている。会議の時には、周囲に、ご利用者が座っておられ、会議の内容を聞きながら周囲から自然にご意見を伝えられることもある。会議では、「ホームで市民大清掃に参加してみたい」といった具体的なご意見を頂く等、積極的な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	奇数月に運営推進委員会を行い、参加して頂く在宅介護者教室の参加を行っている。また、感染予防に関する講義等も行ってもらい、ケアの向上に取り組んでいる。	市の窓口、運営推進会議の案内や報告書を届けており、ホームの状況なども報告している。毎回、運営推進会議への参加をお願いしているが、参加していただくことが難しい状況である。	ホームでは、市の職員からもホーム運営についてのご意見を頂きたいと考えており、今後は運営推進会議の報告書だけではなく、議事録も一緒にお持ちし、ご意見を頂ける働きかけを行う予定にしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、研修報告を行い、身体拘束廃止推進委員会を設置して全職員身体拘束ゼロの継続に努めている。	職員は、身体拘束廃止委員会での見解をもとに、何が身体拘束にあたるのかを常に考え続けており、身体拘束を行わないケアを日々実践されている。ホームにはエレベーターがあるが、ご利用者が乗って出かけようとする時には、職員も一緒に付き添い見守ることで、自由にホームを出入りされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度に留意し尊厳の保持に努め、また、入居者家族と交流会を開催し、親睦を深め人間関係の構築に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度説明会に参加してその流れや制度をすることにより家族への情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時等、管理者、主任、介護支援専門員で説明を行い、本人や家族に同意をとり書類の保管を行うとともにいつでも相談を受け入れるような体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の集まりの場で家族や入居者の意見及び要望を出して頂き検討している。また、日頃から家族や入居者の意見、要望をお聞きし日々の生活に活かせるよう取り組んでいる。	ホームには意見箱を設置し、ご家族がホームに来られた時には、職員から「何かありませんか?」とお聞きするようにしている。ご家族からは、居室のトイレの照明の改善など具体的なご意見を頂いており、意見を頂いたときには、事務長自らが動かれ、すぐに改善が図られている。	ホームでは、ご家族から具体的なご意見を頂けるように働きかけを続けていきたいと考えておられ、今後アンケートを実施したいと考えておられる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回運営会議、セクション会議を開催し運営に関して全員で取り組む姿勢をとり、グループホーム内での解決困難な時は管理者や他セクションへの相談、指導を受けている。	会議の場や毎朝のミーティングを通して、職員同士で意見を出し合っており、日頃から、管理者へアイデアを伝えている。ご利用者への「ほめノート」の記入を始めてからは、ご利用者の支援の方法やホームの行事等について、職員から更に積極的にアイデアが出されるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の中でも快適な環境を整備することをうたい、快適な環境を整えている。働きやすい動線を検討し使いやすい部屋の配置に整えている。また、各種資格取得を推進し進め資質向上も図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修のカリキュラムを制定し3カ月を研修期間とする。グループホーム協議会や社会福祉協議会等の研修には積極的に参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設施設事業所職員と連携を図り、勉強会等の参加や、合同行事、多岐に渡って入居者の介護支援を志している。佐世保市グループホーム協議会の研修や勉強会に参加している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、本人、家族から健康、性格等、いろいろな情報を集め、職員で話し合いを行い、安心して生活できるように支援していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を取り除くために状況、状態を常に報告していくことで安心してもらう個々に合わせた生活の場を作っている。面会の時には近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅(入院含む)から施設入所に際して、家族や本人、また担当ケアマネージャー、その他関わるスタッフからの情報収集を行いアセスメントに活かし、グループ職員で検討し初期ケアプランを作成して支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物のたたみ、配膳、食後の食器拭き、ゴミ捨て等、生活の中でできることは職員と一緒にして頂くようにしている。日常生活の中で役割を分担し共同生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者の事を把握し、より生活がしやすい環境を整え、家族の方にも理解、協力して頂き、支えていきたい。また、家族との外出等支援し本人と家族の絆を大切にしたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパー等買い物に行ったり、夏祭りを開催し地域の方との交流が図れる様支援している。また、地域の小学校の社会科見学や中学校の職場体験学習の受け入れも行っている。	職員は、ご利用者が、以前利用されていた通所や施設のご利用者や職員へ会いに行けるように、ご利用者の希望に応じて施設等への送迎をしており、馴染みの関係が途切れないように支援している。また、随時自宅へお連れするなど、それぞれのご利用者に応じた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール・廊下等にソファを置くことによって入居者同士が談話され、茶話会ではお茶、お菓子を食べながら一緒に過ごされる時間等、くつろげるように心がけている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に異動になったりした場合は面会に出かけたり、死亡退所去れ時は葬儀参列したり、初盆参りに赴いている。また、必要に応じてご家族の相談援助やフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物の希望を取り、朝食時のパンとごはんの選択等、入居者の思いを聞き、それぞれに合わせた援助を行っている。そのような情報は職員間で共有し、理解できるよう会議を開催している。	今年の2月から、ご利用者毎に「ほめノート」を作った。ほめノートには、それぞれのご利用者の素敵なおことや気付いたことを毎日職員が記入しており、ご利用者へ日々記入した内容を伝えられている。職員は、「ほめノート」の記入やノートについてご利用者と話すことを通して、ご利用者の思いやご意向をより深く知ることができるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所生活の中で困っていることはないかの意見交換の時間を設けて話し合い、支援のありかたにをその都度検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一応の食事及び入浴等の時間帯が決まっているが、時間内にできない時もあるのでその方のペースに合わせている。穏やかに過ごされるように見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人や家族の意向を聞き取りながらスタッフと話しを行い支援内容について決定している。また、支援に対する評価(モニタリング)を行い、次の介護計画に反映させている。	計画は、ご利用者やご家族のご意向を盛り込みながら、ご利用者の言葉を用いながら、わかりやすく表現されている。ケアマネが作成した計画の原案を職員全員で検討を行い、主治医や理学療法士の意見を頂きながら作り上げている。散歩など、ご利用者の楽しみも記載されたものとなっている。	ご利用者の日々の生活に沿った計画となるよう、計画の中に、ご家族や理学療法士などの役割を記載してみてはいかがかであろうか。ご本人に関わりのある方の支援も明確にしていくことで、“生活全般”を網羅した計画になっていくことを期待していきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は入居者の言葉をそのまま記録し、その時の感情表現がわかる書き方に努めている。また個人ノート、申し送りノートを作成して職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの店での買い物や美容師の来荘、自宅への訪問を支援したり、病院への送迎を行っている。以前利用されていたデイサービス・ショート利用者や職員との交流も心がけている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設に来られるボランティアの華道教室や家族によるコンサートに参加している。消防署の協力により職員・入居者一緒に消防訓練に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前主治医の受診と入所後は主治医回診と定期検査によって、健康維持に努め医療連携体制をとっている。	協力医療機関の看護師が毎日ホームを訪問しており、職員はご利用者の状況を細かに報告している。また、協力医の往診が週に1回は行われており、往診がない日も職員から協力医に直接相談できる体制が整えられている。週に2,3回ホームから協力医へ報告を行っており、ご利用者に応じた細やかな対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師の配置により日常健康管理に努め、異常が見られた場合は早期に病院に連絡を行い受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの病院とは密に情報交換を行っている。また、入院中はお見舞いにも行き看護師、医師にも病状経過を尋ね、早期退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの説明を行い、実際看取り期に入る際は、本人・家族の意向を十分聞き、医師の説明のもと家族やスタッフが共に協力し合っていけるような体制作りにも努めている。	21年8月～10月にかけて、ホームで初めて看取りケアを行わせて頂いた。ご家族の「ホームで最期まで…」とご希望を受け、ご家族も交代で泊り込みながら、職員と一緒にご本人に寄り添い続けた。他のご利用者も、職員やご家族の対応を見ておられ、最期は、それぞれのご利用者がお一人ずつお別れの挨拶をされた。「私の時もがんばってね」と職員に伝えられたご利用者もおられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等、職員で話し合ったり勉強会等、看護師から指導を受けている。緊急時対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練に参加し、突然の対策を身につけている。災害時は連絡の取り方、マニュアルに沿って行動できるようにしている。災害対策委員会を設置し防災マニュアルを作成中。	ホームでは年に4回消防訓練を行い、ご利用者と職員で取り組んでいる。公民館長を通して、災害時には地域の方への応援依頼を行っている。また、災害時に地域の方をホームへ受け入れる体制も整えており、水や食料品、米等2日分の食料は常時準備している。作成中のマニュアルは、火災時の他、地震や水害にも対応したものとなっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換、トイレ使用時はドアを閉める。居室の見えるところにオムツ類を置かない配慮をし、車いすの後ろのポケットにオムツ類を入れない等の配慮を行っている。言葉かけに対しては職員よりも年上であることを常に考慮している。	職員は常に、ご利用者の自尊心や羞恥心への配慮に努めており、ご利用者が使用する排泄用品は居室の中や目に付く場所には置かず、トイレの中のみ置くようにしている。また、居室に入室する時には必ずノックをしており、食事中にエプロンを使用する方には、目立たないように腰からひざに掛けて使って頂く等、細やかな対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	住みやすく、生活が楽しく送れるように支援していく。一度では忘れがちなのでその都度の対応を心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物された食材で調理されたり、家を見に行きたいと希望された時はお連れしている。その他、ホールや廊下にソファを置き、交流できる場を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本人が慣れ親しんできた洋服を持ってきてもらい、できるだけ自分できる服を選んでもらう。衣類洋品店に来て頂き、入居者本人に洋服を選んでもらっている。化粧をされる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べれない食材に気をつけている。入居者の希望により朝食はご飯からパンに変更している。小鉢のつぎ分け、配膳準備片づけ等の共同作業を行っている。	毎日の食事は、施設の栄養士が作成した献立を参考にしており、ご利用者がホームにあるプランターで収穫したブロッコリーやナス等の野菜を使いながら作られている。ご利用者の希望や職員のアイデアで、日によっては土鍋を使って鍋料理を楽しんだり、食事をお弁当箱に盛り付ける等、ご利用者を楽しんでいただけるよう工夫している。	今後は、ホームのプランターの野菜収穫だけではなく、水遣りなどの日々のお世話も含めて、ご利用者に取り組んで頂き、ご利用者のお力を発揮していきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の栄養士が作成した献立表を参考に調理を行っている。摂取量を記入し、量が少ない方は看護師に相談する。水分確保は、食事時、10時と15時のおやつ時、居室への1日3回の配茶を行い、飲水量の確認を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアの中で気付いたことは歯科医に往診してもらい、助言をもらっている。出来ることは本人に任せ、支援をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便調整されている方は、トイレ使用時に声かけを行ったり気配りをしている。トイレ掃除時に便器の汚れ具合の確認でも排便のチェックをしている。	それぞれの居室にトイレとシャワーが設けてあり、居室から移動することなく細やかに排泄の対応できるようになっている。ご利用者が自分で対応できるように、トイレに汚れた服を入れる容器を準備したり、トイレに座ることが難しいご利用者には職員が二人介助で対応する等、それぞれのご利用者に応じた排泄支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	機能訓練を通して運動を行い、食事の残りや水分の取り方を把握して対応を行っている。また、食事摂取量や水分摂取量の少ない時はチェック表を作成し状態把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される順番を決め、みんなが一番風呂に入れるようにしている。入浴拒否等の時は順番を変えたり、どうしても無理な時は清拭を行い翌日に変更したりしている。	ご利用者には、お一人ずつゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。ご利用者に応じてシャンプーハットを使って頂いたり、身体状況に応じてリフト浴の対応も行っている。入浴椅子のパイプ部分が、身体に触れて冷たく感じないように保護材を巻く等の細やかな配慮もされている。菖蒲湯や入浴剤を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴時間をゆっくり取り、その人のペースで過ごすことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬管理簿を作り、各入居者の薬の内容確認ができ、毎回与薬ごとに職員2人で確認を行うことを徹底している。また、副作用等の変化は看護師の指導のもと早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った生活の場の手伝い等を心がけている。何もせず、ぼーとする時間を無くし、レクリエーション等に参加してもらっている。食べ物に関しては他の食料にて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎週1回は入居者を連れて買い物に出かけることや、行事計画でのドライブ及び季節の行事等を家族の協力を受けながら行っている。	感染予防のため、人が集まる場所への外出を控えている時期もあるが、公園などへのドライブ外出は楽しまれている。季節によっては、地域の公民館祭りや神社の夏祭り等の地域行事にも参加している。ご利用者は、ホームの隣の事務所へ遊びに行ったり、ゴミ捨て場所へゴミ捨てに行く等、日常的に屋外へ出かけられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回買い物日に個人の好きなものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人から小包や手紙が届いた時等、本人が電話や手紙が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々環境整備、室温調整に心がけている。また、入居者を一緒に季節ごとの掲示物を作り、ホールに貼っている。	ホーム内は、ご利用者と職員で作った季節ごとの掲示物と共に、職員が持ってこられた、季節の花がさりげなく飾られており、ホームの中にも季節感を感じることができる。ホームのリビングや廊下にはソファが置いてあり、ご利用者に思い思いの場所で過ごして頂けるように配慮がなされている。空調を用いて細やかに温度管理が行われており、加湿器での湿度管理も配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと廊下にそれぞれ3か所ソファを設置して自由に座って頂けるよう声掛けや雰囲気作りに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使い慣れた物、テレビ、椅子、人形、写真、仏壇等を居室内取り入れ、馴染みの雰囲気を作れるようにしている。	ご利用者に応じて、ベッドを使って頂いたり、居室に畳のスペースを設けて布団を敷いて頂くなど、ご自宅で生活されていた環境に応じた居室作りに取り組まれている。ご利用者が大切な物を飾っておられる空間は、ご利用者と相談しながら掃除をする等、ご利用者やご家族と相談しながら、それぞれのご利用者に応じた居室作りに取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の仏壇にお茶やご飯のお供え、衣類入れのタンスへしまう等、個々の能力や生活歴に応じた部屋作りに努めている。日中や夜間の生活シーンに応じてポータブルトイレを設置したり、滑り止めマットを準備するなど対応している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	入居者が出来る事・出来ない事を職員が、各々に把握しており、介護や手助けをしてしまっている事がある。情報交換をおこない、残存能力を活かした生活プランとしたい	入居者の有する能力に応じて、その人の思いを尊重し、くつろげる生活の中で、自分の持てる機能を発揮できるように見守り・支援する。	ご家族様からの入所前の生活情報も踏まえ、本人の健康状態を把握しながら、個々の24時間シートを職員全員で作成し、出来る事・出来ない事・声掛けをおこなうと出来る事の情報共有し実践する。	6 ヶ月
2	10	家族面会時に状態報告はおこなっていたが、家族の思いを十分に聞ける時間が少なく、今後本人・家族の意見を取り入れられるような体制作りが必要である。	その人らしい貴重な思いを大切にしたい生活ができ、入居者が安心して暮らせるような援助の方法をかんがえる。	ご家族様からも意見が充分頂けるように、合同カンファレンスの開催・利用者家族の利用満足度アンケートの実施に取り組み、自己評価及び意見を業務に反映させる。	6 ヶ月
3	5	運営推進会議などの会議に市の職員の出席が今年度は少なく、運営推進会議議事録に対しても意見・指導を頂き、今後も市との連携が必要である。	地域の方々や市の行政機関からの協力にて、自らのサービスの質の向上を目指す。	運営推進会議は2ヶ月に1回テーマを決めて実施する。(5・7・9・11・1・3月開催) 消防訓練は市消防署からの指導を受け、地域住民の参加も お願いし、地域協力体制を確立する。	12 ヶ月
4	40	昨年はプランターに野菜を植え、収穫した野菜を利用した食事メニューを取り入れた。今年度は利用者と共に苗植え・毎日の水やり・収穫までの流れを一緒におこなう。	暮らしの中に季節感を多く取り入れる。	春の植木市に買い物に行く事から始め、収穫までの流れを利用者主体でおこなう。その中で利用者の役割分担を見つける。また梅干・らっきょ作りもおこなう。	10 ヶ月
5					ヶ月